

「アスペンで遺灰をぶちまける」

坂口 裕靖

最近 Netflix で Monty Python が見られるようになったことに気がついて、密かに喜んでいます。1969 年～1974 年の作品ですから、今からなんと 50 年、半世紀も前の作品です。今のヒトが見て面白いのかどうか分かりません。が、私には大変面白いわけです。

最初に見たのは、ご多分に漏れず東京 12 チャンネルのタモリさん出演バージョンです。当時小学生でしたが、「政治家のストリップ (2-7 (20) /Secretary of State Striptease)」「おねむちゃん (1-5 (5) /Silly Job Interview)」の 2 つは強烈に印象に残ってます。学校で真似して遊んでた思い出があります。一方で「バカ歩き省 (2-1 (14) /The Ministry of Silly Walks)」「フルーツから身を守る方法 (1-4 (4) /Self-Defense Against Fresh Fruit)」「アクスブリッジ通り "北壁" 登頂 (3-7 (33) /Climbing the North Face of the Uxbridge Road)」「ちょんちょん (1-3 (3) /Nudge Nudge)」「恐怖の殺

人ジョーク (1-1 (1) /Funniest Joke in the World)」「羊のコンコルド (1-2 (2) /French Lecture on Sheep-Aircraft)」も同様なのですが、東京 12 チャンネルで見たかどうかはちょっと自信がありません。「アホウドリ (1-13 (13) /Albatross)」も強烈でした。あ、x-y (z) 表記は「第 x シリーズ第 y エピソード、通算 z 話」と読み替えてください。特にこういう表記が一般的というわけではありませんので誤解なきよう。個人的に勝手に呼んでるものです。

「ちょんちょん」はなんといっても広川太一郎さんの演技が素晴らしすぎ、同じ味を期待して原語版をみるとちょっとがっかりしたりして、まさに吹き替えがもたらすことのできる可能性を見せつけてくれるスケッチになってます。Eric Idle もハイテンションで流れるようにセリフが出てきてすばらしいのですが、広川さんのとにかく詰め込む音節数とパッション、それでいて原語に微妙にニアミスしつつ乖離していく吹き替えのライブ感にはかないません。Terry

Johnes がテーブルにビールをどんと置いて、ジョッキの中からビールの柱がびゅっと立ち上がるのがライブ感溢れてて良いです。「おねむちゃん」も同様に吹き替えの良さが際立つスケッチで、映像の方の John Cleese の表情もさることながら、声をあてられた納谷悟朗さんのメリハリある演技が絶妙にマッチし、元のスケッチよりおちよくってる感が強烈に増幅され、絶品という他ありません。Graham Chapman の山田康雄さんとの掛け合いも素晴らしい。

「政治家ストリップ」は 1976 年当時、「8 時だよ！全員集合」で加藤茶さんの「ちょっとだけよ」の下地があるところで、海外の番組で同じコンテキストのギャグが出てきたから印象に残っていたのではないかと思います。しかも「ちょっとだけよ」がお色気方向だけで笑いを取る方向だったのに対し、このスケッチはセリフを聞いてるとまともなのに、画がとんでもないことになってるという落差で笑いを取るのがなんとも賢く見えて、モンティ・パイソンすげえ！

One Point BUZZ WORD

令和墨書

あの 2019 年 4 月 1 日に菅官房長官が掲げた「令和」の墨書が、内閣府 Web サイトで pdf データとして 2019 年 5 月 16 日に公開されました。この URL は <https://www.cao.go.jp/others/soumu/gengou/#reiwabokusyo> で、「官房長官会見時の墨書」という h3 見出しの下に、「墨書 [令和] (PDF 形式: 178KB)」というリンク文字列で <https://www.cao.go.jp/others/soumu/gengou/pdf/reiwabokusyo.pdf> という pdf ファイルへのリンクが貼られています。

外務省の「ヘボン式ローマ字綴方表」<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/passport/hebon.html> によれば、「しよ」の綴りは「sho」ということですが、これはファイル名であって人名ではないので、ヘボン式に従わない「syo」でも問題ないのでしょう。

政府系のサイトは大抵そうですが、URL に意味がありません。上記墨書の一つ上のディレクトリは /others/soumu/ ですが、なんと驚いたことにここにはインデックスページが用意され

ておらず、404 が返ってきます。もう一つ上の /others/ もなんと驚いたことに同様です。一方で上記ページのパンくずリスト的には「内閣府ホーム > 内閣府の政策制度 > 元号について」となっていますが、それぞれに対応するのは、順に「/」「/seisaku/seisaku.html」「/seisaku/seido.html」「/others/soumu/gengou/」となっています。政策と制度が概念上の包含関係にあるのに、URL としては並列で並んでるのも違和感がありますし、その子要素である元号がアサツテの URL に飛んでくこの爽快感。以上のことから、こちらのサイトはページ単体の見た目だけで管理されており、サイトとしての整合性は一切放置されていることが明らかです。温泉旅館並の違法建築・突貫工事モノですね。

そもそもこの pdf には利用制限がかかっており、政府が「オールライツ」で調達する気がなかったことを強く示唆します。で働き方改革だって？ Oh! It's so Cool Japan!!

と感じました。あらためて見直すと、Terry Johnes の尻振り回し具合がナイス。

「silly walk」は John Cleese が類まれなる身体能力を駆使して異常な動きをしており、一度見たら忘れられません。同じスケッチ内で Pythons が様々な silly walk を披露しているものの、なんというか格が違いすぎ、まさに別次元。Carol Cleveland が silly walk でコーヒー持ってくるのは構成の妙であり、これを思いついたのは秀逸ですが、なにせ John Cleese が全部持ってしまいます。一方 Michael Palin の援助されなさそうな silly walk も味わい深く、愛らしいところです。「フルーツ」は John Cleese のエキセントリックな演技が最大限発揮されて、圧巻です。John Cleese は真面目なセリフを真面目に言うだけでおかしみが増幅されるという天賦の才を持っており、これがエキセントリックになることで爆発的に面白くなるのです。そもそもフルーツで武装する敵から身を護るという状況、誰が思いつくでしょうか？発想からしてぶっ飛んでるのに、演技がさらに膨らませています。同じスケッチが And now for something completely different にも収録されてるのですが、微妙に間合いが異なり、TV 版の方が完成度が高いと感じるのは私だけでしょうか。

「アクスブリッジ」「殺人ジョーク」は本当にアイデアの勝利で、初見時はぶん殴られた気がしました。「アクスブリッジ」の方はビジュアルギャグですが、こちらは ZAZ のビジュアルギャグが持つ味わいに通じています。一方で「殺人ジョーク」は本当に一世一代のアイデアじゃないでしょうか。こんな構造思いついたら、そりゃ死んでもいいと思うでしょう。Graham Chapman の「A Gestapo Officer」の味わいもさることながら、John Cleese 演じるドイツ将校が身を屈めて肘でちょんちょんしながら笑うところとか最高。Terry Gilliam の超大根演技も見逃せません。こち

らは And now にも入ってますが、なんかこう、間が違って残念なんですよ。背景は And now の方が数段良いのですが。

イマイチという意味では、「危険なポケット英会話ブック (2-12 (25) / Dirty Hungarian Phrasebook)」もそうです。テレビ版の方が色々タイミングが上手く行っていて、映画版の方はせっかく背景が豪華なのに今ひとつ噛み合っていないのが残念。

「Albatross」スケッチは不条理という意味で白眉でしょう。映画館の幕間にアホウドリを売る女装の売り子。いや、女装なのか、女装に見えるけど作品空間の中では女性なのかはハッキリしませんが、いずれにしろまともに考えたら絶対思いつかない不条理さじゃないでしょうか。しかもこれ、食べ物でも何でもなく、ただアホウドリを売ってるという状況に仕立て上げたのがすごいところです。一方「羊のコンコルド」はヒゲを付けてる方が喋れるという状況を考え出したところもすごいのですが、John Cleese の動きがあまりに面白くて印象に残る一品です。あんなふうに動けたらな、と子供心に憧れました。Michael Palin がヒゲを渡すところで吹いちゃって、顔を隠してごまかして、それを受けた John Cleese が吹きそうになるのをなんとか堪えてるのも見逃せません。

Monty Python は各方面に色々影響を与えており、皆様お使いの Python も、そもそもは Guido van Rossum が Monty Python のファンだったからですし、スパムメール略してスパムはそもそも米国 Homel Foods の商品だが、「必要でもないのに送り

つけられる」という意味は Monty Python のスケッチ、「スパム (2-12 (25) / Spam)」でバイキングが高らかに歌い上げる歌から来てます (諸説ありますが、私はこちらの説をとります)。

で、Netflix で「Monty Python : Almost the Truth (The Lawyer's Cut)」をみると、やはり亡くなってしまった Graham Chapman まわりのところでじんわりくるわけですね。はっきり言って今の基準で考えると冗長だったりよくわからなかったりするスケッチやリンクも多いわけですが、それでもパイソン以前・パイソン以降を区切る一つの基準として、クラシックとして位置づけられている、本当に偉大な作品であることを改めて感じます。

Monty Python はその殆どでランダムなスケッチが Terry Gilliam のアニメで繋がられているため、スケッチの順序を覚えるのが困難です。とりあえず Wikipedia のおかげでスケッチ名については共通言語ができましたが、できればカット単位で ID をつけるなど、引用しやすくなってくれるとありがたいと思うのは私だけでしょうか。

Hiroyasu Sakaguchi
株式会社 IMAGICA Lab.

映像スタジオ施工

多様化するデジタル映像環境に対応、映像スタジオ施工なら豊富な実績、直営システムに依る徹底したコストダウンを実現する



Takahashi Construction Co., Ltd.
SOUND PROOF
匠の技をスタジオに

MA室ブース各種編集室

一級建築士事務所

高橋建設株式会社

本社 〒216-0032 神奈川県川崎市宮前区神木1-7-8
TEL 044-853-0547 FAX 044-852-1588

(社)日本ポストプロダクション協会会員 / (社)日本音楽スタジオ協会会員
(社)日本音響学会会員
<http://www.takahashi-kensetsu.co.jp>
info@takahashi-kensetsu.co.jp

～映像・音響専門で
41年～
(映像・音響・防音・建築・設計・施工)